

大型汎用機の技術者育成

企業の枠超えノウハウ獲得

キンドリルジャパン(東京都中央区、上坂貴志社長)は、同業6社で組織するコンソーシアム(共同事業体)をテコに、メインフレーム(大型汎用機)の運用・保守を担う若手技術者の育成に力を注ぐ。各社が得意とするノウハウをベストプラクティス(最適解)として相互に教え合うことで、高齢化や人員減が懸念されるメインフレーム技術者の世代交代を円滑化する。若手のモチベーション向上に向けて、キャリア相談でも交流する。

(編集委員・斉藤実)

キンドリルなど6社

コンソーシアムは次ンバーとして、共同研 区、TDIセットサービ 代を担う若手メンフ 修やキャリア相談に取 ワン(東京都品川区)、 ーム技術者の育成を り組む。 コンピューターサイエ 中心に、企業の枠を超 ンソーシアムには ス(同)、フォーカ えて人材の底上げを図 キンドリルジャパンの スシステムズが名を連 することを目的に202 ほか、米IBMのメー ねる。 2年に発足。日本IB ンフレームを中心に扱 共同研修は各社がそ Mから分社したキンド ーITベンダーとして れぞれ得意とする技術 リルジャパンは中核メ アイオス(東京都港 ノウハウや知見を持ち

共同研修 新テーマに「最新化」



メインフレームの組み立て作業(米IBM提供)

寄り、持ち回りで講師 講習会を開いている。 役を担当。ハードウエ 「参加人数は毎回3ケ アや基本ソフト(O タ以上」(キンドリル S)、ミドルウェア、 ジャパンの嶋田克己ス 運用の効率化などをテ トラテック・デリバ リー・メインフレーム

「既存の資産を維 のベンダーに依存しな 持するだけでなく、モ い立場にあり、マイグ ダナイゼーションを含 レーション(移行)で めた新しいスキルを身 はクラウドなどの専門 に付けることが必要」 チームと連携しながら (嶋田部長)なためだ。 最適な提案を行う。技 具体的には新機能の 術者の育成を加速し、 活用などのメインフレ ーム起点の新たな取り 組みや、クラウドとの げる好循環が期待され 連携をはじめとするハ

統括部長)と盛況。参 イブリッド(混在)活用 加者は若手が多いが、 に焦点を当てる。さら 年齢制限はなく、シニ に顧客の要望に応じ ア層も参加していると て、クラウドなどの異 なるプラットフォーム

活動は2年目に入 (基盤)へ移行する際の り、通常の研修やキャ 手順やスキルも学ぶ。 リア相談に加え、新た コンソーシアムはI にメインフレームのモ B M製メインフレーム

ダナイゼーション(最 の扱いが中心となる 新化)をテーマに加え が、キンドリルは特定

日刊工業新聞 - 株式会社アイオス